

帯広に駐屯する第 4 普通科連隊が、7 月 14 日から 17 日の間、同連隊の隊区縦断機動訓練（サーモントレッキング 2003 と命名）を実施した。同連隊の隊区は十勝平野の南端広尾町から十勝の奥座敷とも言われる陸別までの 8 町 1 村を隊区としているが、その隊区をあたたかも鮭が遡上するが如くに、夫々の町村を分区とする中隊が個人及び部隊装備火器を携行して駆伝の如くに次の中隊へ機動を繋いで行こうという試みである。

隊区の協力会の方々が途中途中で暖かい御もてなしをして頂き、連隊の隊員一同、極めて印象深い行進訓練であったようだ。小生もその一部を見せて貰い、行進中隊と隊区内の方々との和やかな交歓の様子をも見せて貰った。

ある町については、『第 4 普通科連隊第〇中隊（〇〇町担当）徒歩訓練を激励しましょう』と言う、行進経路と通過時間入りのチラシを配って頂いていた。その効果もあってか大勢の方の声援があり、隊員も足が痛い、背囊が重い、苦しいとは決して言えぬ状況であった？



温かい激励の様子を紹介しよう。町村名は省略させて貰う。

- 昆布取りのおばさんから、「御苦勞様」の声援
- かもめが同行声援
- 町長、助役、自衛隊協力会、後援会、励ます会、自衛隊父兄会、隊友会等総数で 100 名を超える方々からの激励、或いはジュース・同村名物の饅頭等の差し入れ
- 通学途中の小学生から「頑張って！」の黄色い声援
- ツーリング中の青年から「御苦勞様です」
- 行進を目にした商店街の皆さんから拍手と声援
- 牛による突然の声援？
- 配布されたチラシを見た皆さんからの沿道での声援
- 町界付近の一軒家に住むお母さんと娘さんの深夜 2400 頃の声援
- 同じく町界付近の〇〇牧場の皆さんの拍手による出迎え
- 自衛隊協力会の方々の早朝からの炊き出しによる豚汁の差し入れ

番外編

- 「何処から何処へ行くのか？」[実弾は持っているか?] 等々不自然な質問を受けて慌てた某
- 「行進終了、人員、武器・装具異常なし」と報告した後部隊に帰隊し、再点検の結果、自分の水筒を忘れた事に気づいた報告者の某幹部、慌てて捜索に直行した。勿論直ぐに見つかったのは言うまでもない。
- 苦情を言われるのかと思ひ、釈明に行ったところ、「応援してみても良いですか?」と

言われ、うら若い二人の女性を連れてきた某科長。

- 休止点など行進経路沿いで収集したごみの量はゴミ袋5袋分だった由。

以上のデータは村上連隊長から頂戴した。部隊と地域の方々との心暖まる交歓の一端を理解して貰えたでしょうか。この様な交流が近年失われつつあるような気がしています。地域の方にとっても、隊員諸官にも忘れがたい訓練になったものと確信します。